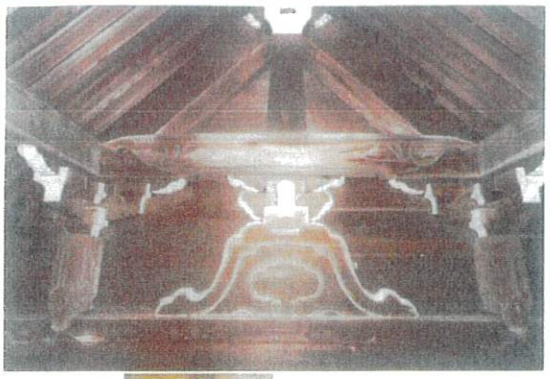
広島大学名誉教授（日本建築史・城郭史・文化財学）三浦正幸氏 講演資料

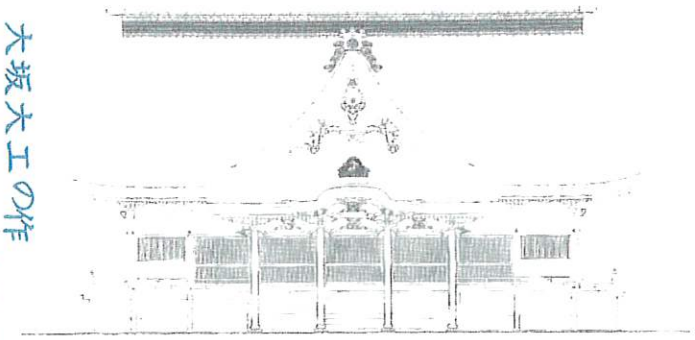




池田公好みの復古本殿

「由」「品吉備津大明神」

備前一宮吉備津彦神社本殿
元禄10年（1697）池田公が造替
三間社、流造
棟札：一宮一品吉備津大明神

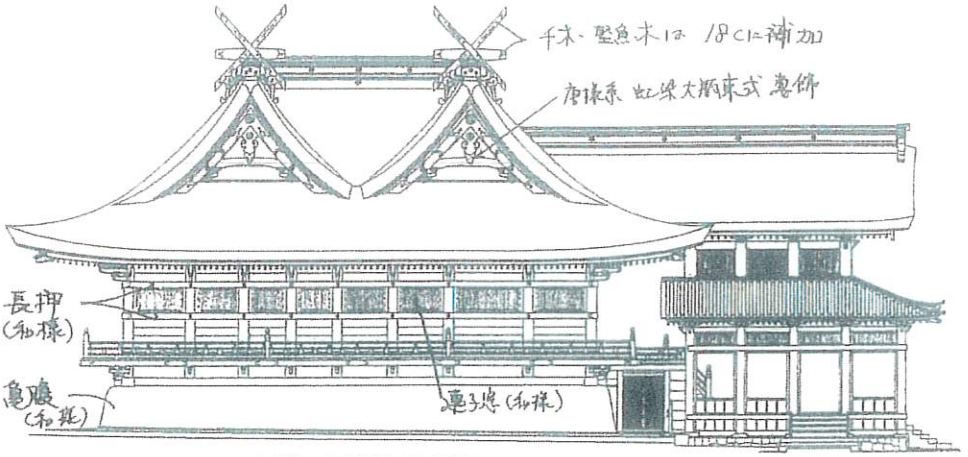


大坂大工の作
豊臣系の桃山建築の意匠を加味
千鳥破風 軒唐破風
吉備津神社本殿の平安時代の規模

備後一宮吉備津神社本殿
慶安元年（1648）水野公が造替
七間社、入母屋造、向拝三間
千鳥破風・軒唐破風つき



三備一宮吉備津神社御本殿・拝殿
応永12年（1405）再建　同32年（1425）正遷宮



本殿　比翼入母屋造

本殿内陣の棟　　朱の壇（拝殿）の棟

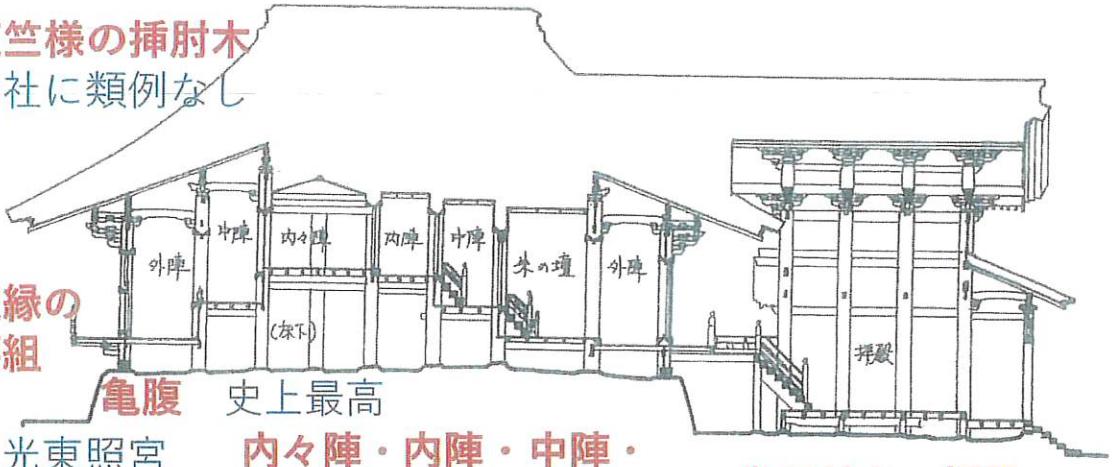
拝殿（古名は舞殿）

切妻造、裳腰つき

吉備津造（比翼入母屋造に裳腰付きの拝殿）

天竺様の挿肘木

神社に類例なし



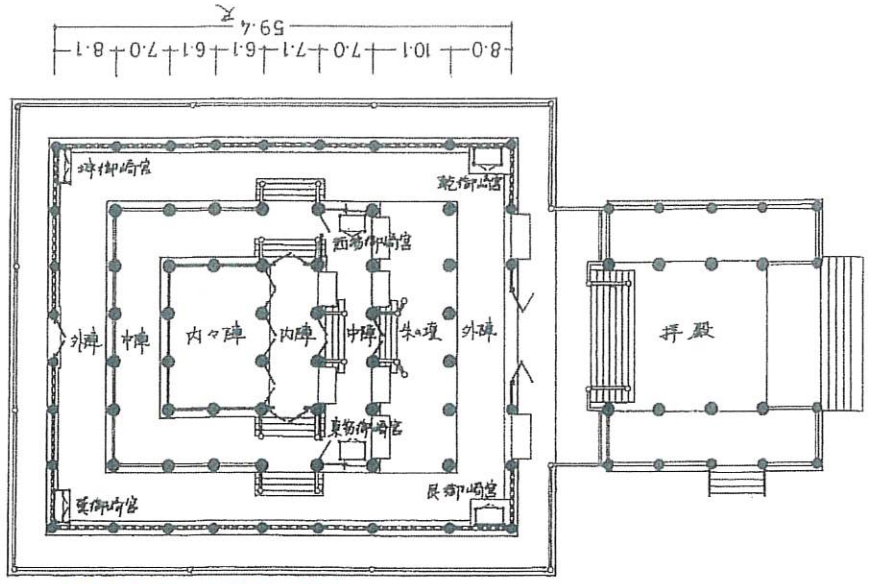
廻縁の
腰組

亀腹　史上最高

日光東照宮
に200年先行

内々陣・内陣・中陣・
朱の壇・外陣の五段構え
史上に類例なし

裳腰付きの拝殿
史上最高の拝殿



朱の壇はもとの拝殿
拝殿はもとの舞殿
本殿・拝殿・舞殿の構成は
平安時代の京の神社
八坂神社・土佐神社・尾張造

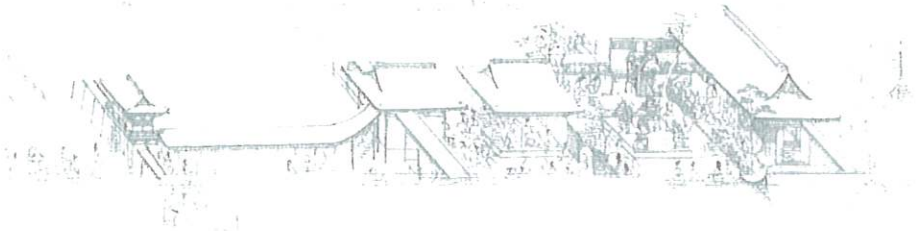
七間社、比翼入母屋造

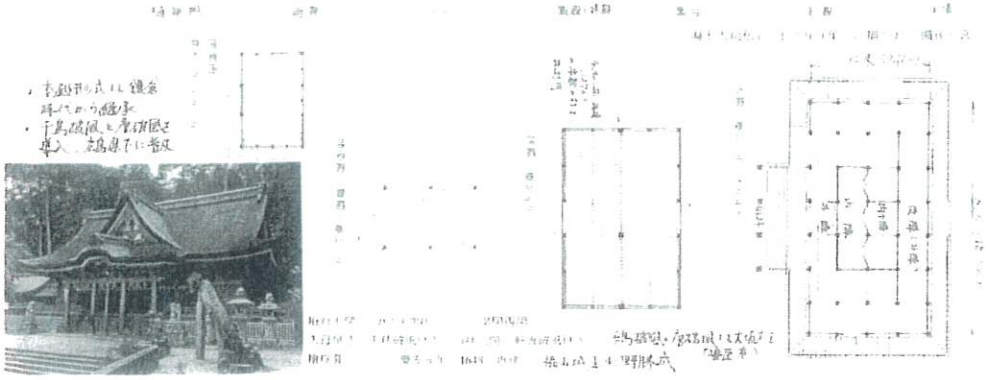
内々陣を中陣と外陣で二重に取り巻く。類例なし

三浦正幸・広島大学名誉教授 講演資料

備後吉備津神社

備中吉備津神社の原型を残す

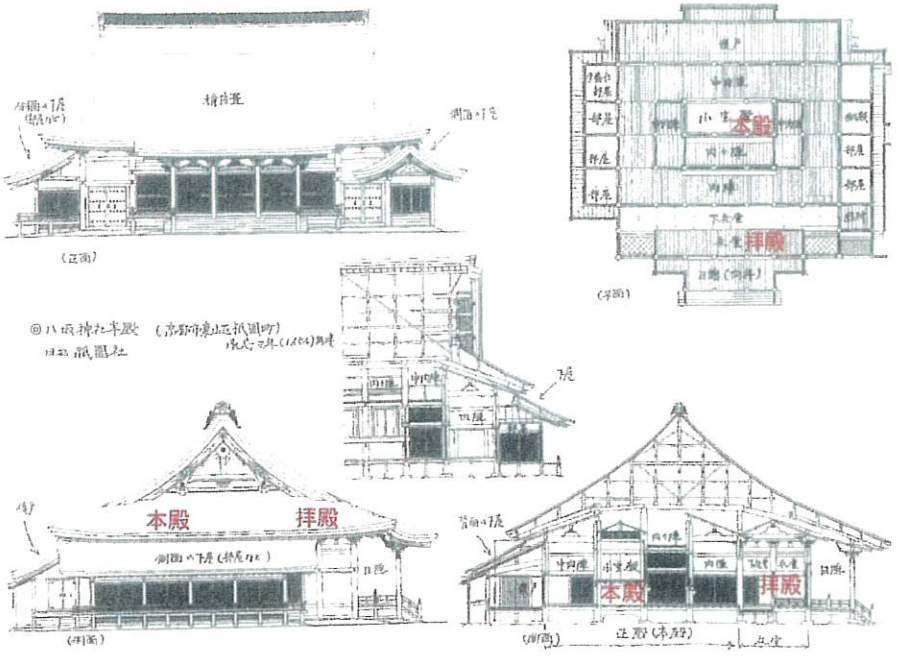




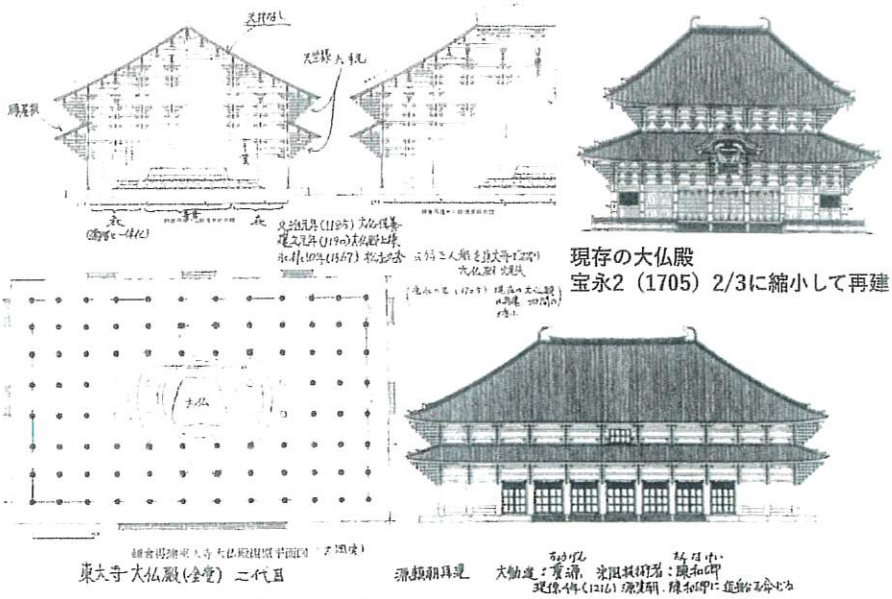
八坂神社 祇園社 八坂造

本殿と拝殿を一棟の入母屋造に

吉備津神社より新式



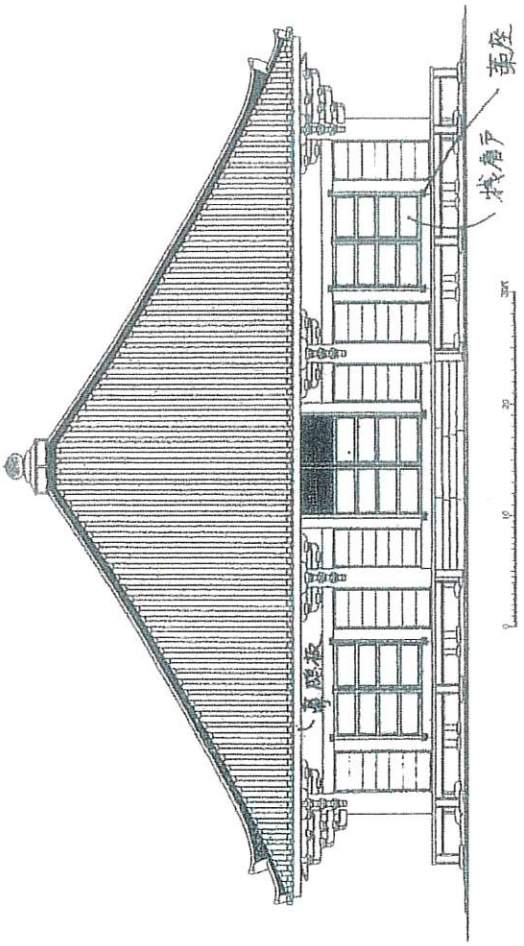
東大寺大仏殿

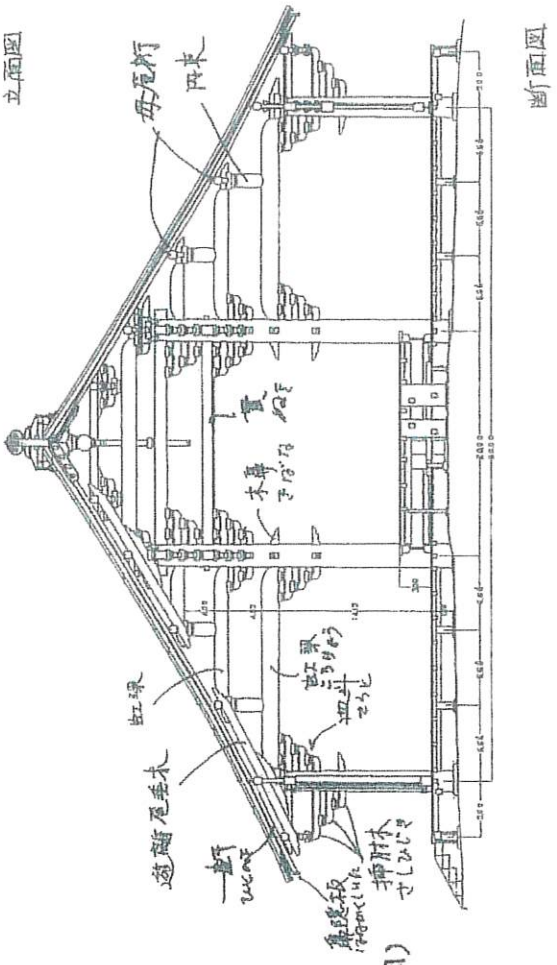


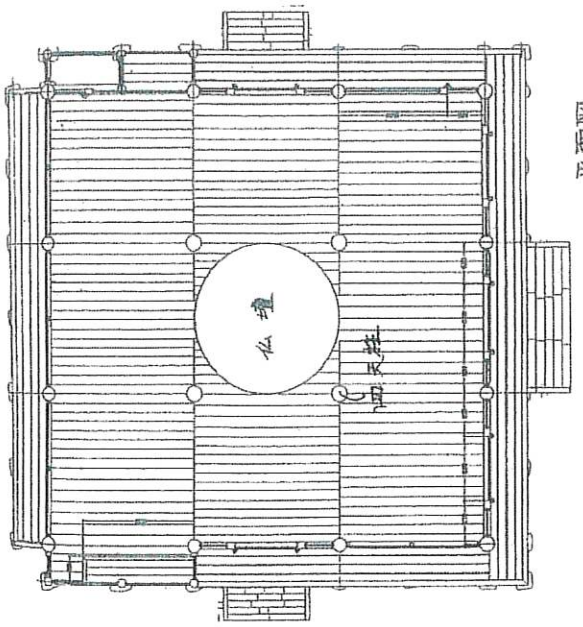
現存の大仏殿
宝永2（1705）2/3に縮小して再建

三浦正幸。広島大学名誉教授　講演資料

天竺様　大仏様
南宋の福建省の建築様式



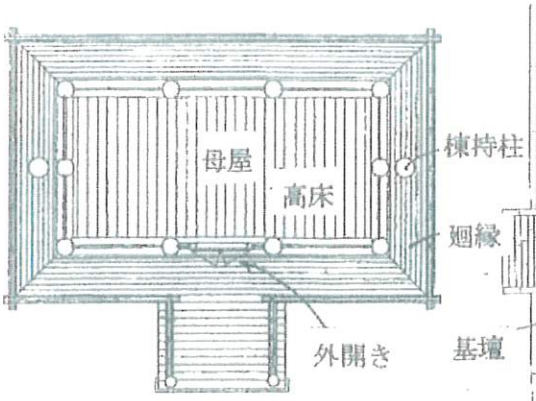




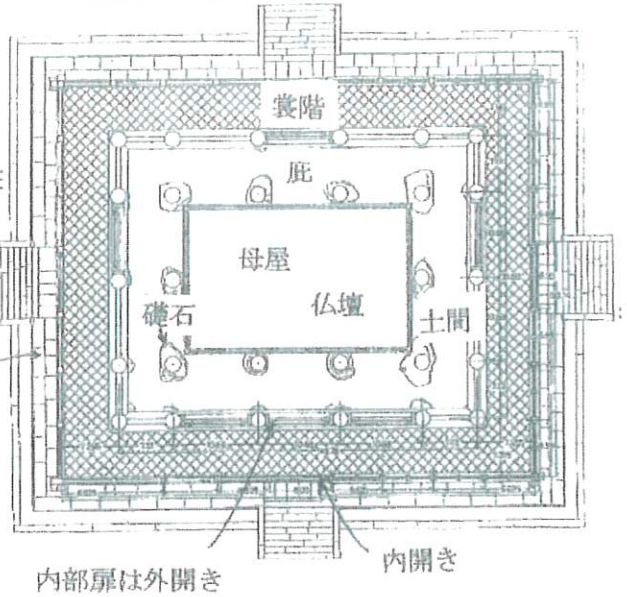
てんじくよう
天竺様（大仏様）
・東大寺大仏殿再建のために宋大仏師の
　重源が前半の建築指導と此の技術を移入
・宋人陳和卿の技術協力
特色　福建地方近辺の地方色（旧式）
　天井なし（化粧）、貫（方形）
　挿肘木・斗栱・木鼻（福建）
　円形断面の虹梁（福建）
　隅扉桟（中国建築）扉腰板（同）
　二軒（福建）
俗称様式　なお東大仏殿以外には発展せず
　木鼻のみ残る

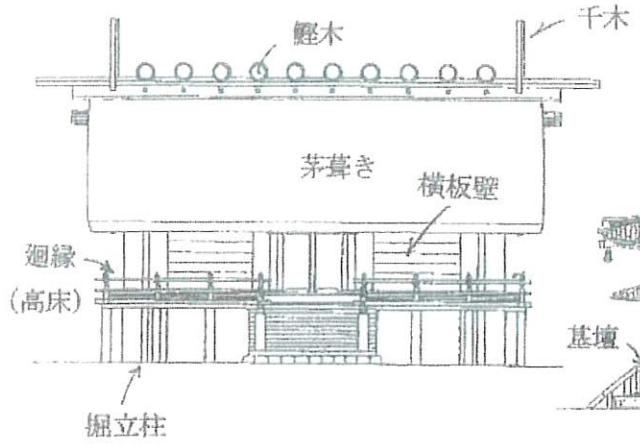
浄土寺浄土堂（兵庫県小野市）建久三年（1192）

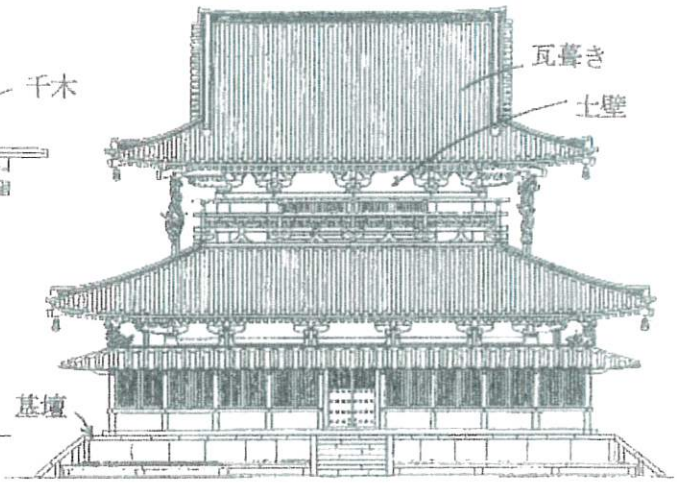
神社本殿＝日本の古代宮殿建築

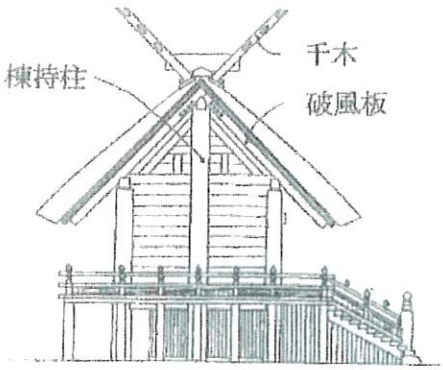


寺院金堂＝中国宮殿建築



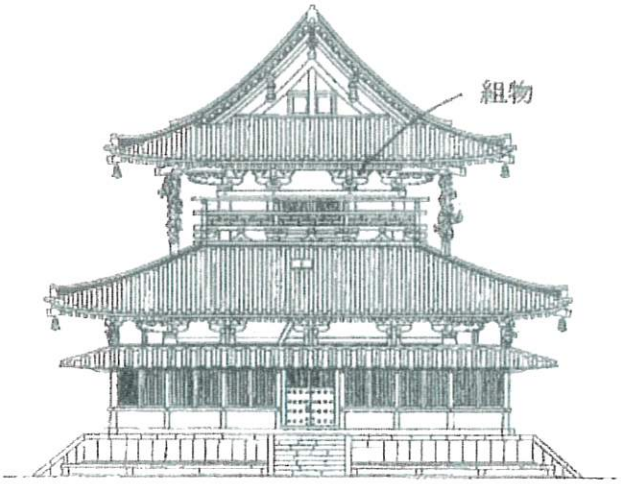






伊勢神宮正殿

七世紀後期創建

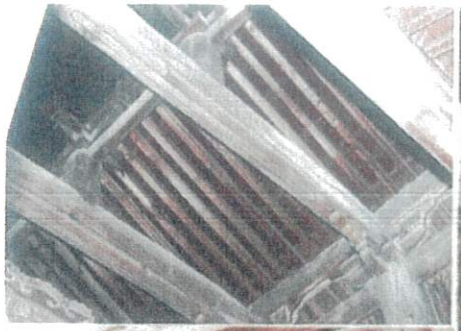


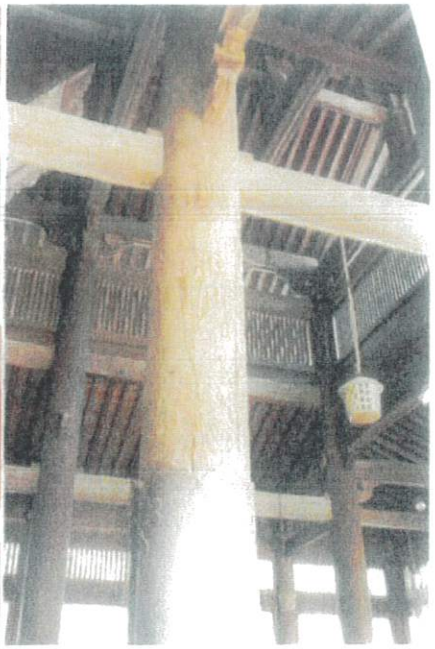
法隆寺金堂

七世紀後期再建

神社と寺院の相違

三浦正幸・広島大学名誉教授 講演資料





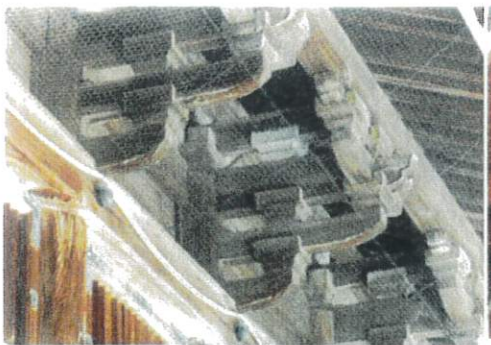
吉備津神社拝殿
内部が史上最高の拝殿




東大寺法華堂(三月堂)
亀腹に縁束



吉備津神社本殿
亀腹に腰組
史上最高の亀腹に史上初の腰組




浄土寺浄土堂
天竺様の組物



吉備津神社本殿
天竺様の組物
挿肘木　　皿斗
北随神門
天竺様の肘木
和様の斗
柱上に組物



三浦正幸・広島大学名誉教授 講演資料